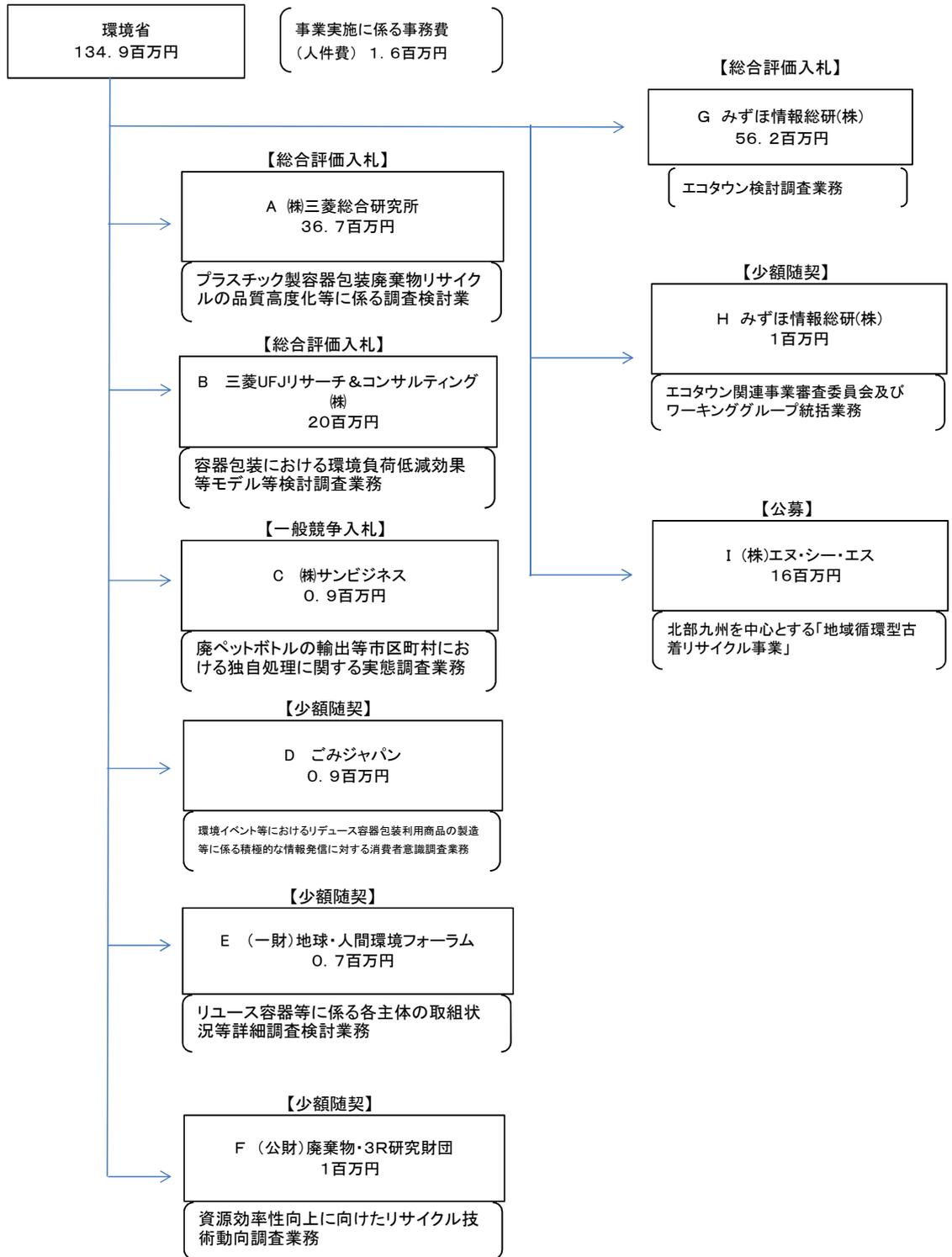


平成27年度行政事業レビューシート (環境省)

事業名	我が国循環産業の戦略的国際展開・育成事業（ビジネスモデル支援）			担当部局庁	大臣官房廃棄物・リサイクル対策部		作成責任者	室長 庄子 真憲		
事業開始年度	平成23年度	事業終了（予定）年度	平成30年度	担当課室	企画課リサイクル推進室					
会計区分	一般会計			政策・施策名	4. 廃棄物・リサイクル対策の推進 4-1 国内及び国際的な循環型社会の構築 4-2 各種リサイクル法の円滑な施行によるリサイクルの推進					
根拠法令 （具体的な 条項も記載）	循環型社会形成推進基本法第18条			関係する計画、 通知等	第三次循環型社会形成推進基本計画第5章『国の取組』 第2節『国内における取組』、第3節『国際的取組の推進』					
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費					
事業の目的 （目指す姿を簡潔に。3行程度以内）	民間企業の活力・創意工夫を活かして、リサイクルの量に着目した取組に加えて、素材の性質に応じてリサイクルの質を向上させるとともに、資源循環のバリューチェーン化の取組を通じて、品目や素材の枠にとらわれないリサイクルを促進することにより、環境負荷の低減（廃棄物の最終処分量の削減等）及び持続可能な資源活用並びに国内経済の活性化を図り、「環境と経済が好循環する持続可能な循環型社会」を構築することを目指す。									
事業概要 （5行程度以内。 別添可）	各リサイクル法制度を越えて循環資源の有効利用の展開を図る上では、民間企業の活力・創意工夫を活かした循環型社会ビジネスとしての取組が重要であり、新たな循環型社会ビジネスモデルの形成の促進に向けて、①循環資源の高度利用（水平リサイクル、再生材の高品質・高付加価値化等）・資源回収のためのリサイクル技術の調査・実証を行うとともに、②既存のリサイクル施設を活用した関係事業者等のネットワーク構築による循環資源の安定調達、循環資源やエネルギーの相互融通、リサイクル製品の規格化・安定供給による需要拡大等のための実証事業を実施し、これらのリサイクル技術の実用化・リサイクルシステムの社会実装を図る。									
実施方法	委託・請負									
予算額・ 執行額 （単位：百万円）	予算 の 状 況	当初予算	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
		計	211.9	206.1	212	159.6	-			
	執行額	187.6	189.2	134.9	-	-				
執行率（％）	89%	92%	64%	-	-					
成果目標及び 成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標	単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 29年度			
	一般廃棄物（ごみ）のリサイクル率を、平成29年度までに目標値まで引き上げる。	一般廃棄物（ごみ）のリサイクル率（（直接資源化量＋中間処理後再生利用量＋集団回収量）／（ごみの総処理量＋集団回収量））	成果実績	％	20.4	調査中	調査中	-		
			目標値	％	26	26	26	26		
			達成度	％	78.5%	-	-	-		
成果目標及び 成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標	単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 30年度			
	ペットボトルからペットボトルにリサイクルされた製品の量を、平成30年度に目標値まで拡大させる。	ペットボトルからペットボトルにリサイクルされた製品の量	成果実績	億本	-	6	調査中	-		
			目標値	億本	-	6	7	9		
			達成度	％	-	100%	-	-		
成果目標及び 成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標	単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 30年度			
	容器包装プラスチックを原材料とした高品質な再生材が用いられた日用品や電気電子製品等として実用化された製品の品目数を、平成30年度に目標値まで拡大させる。	容器包装プラスチックを原材料とした高品質な再生材が用いられた日用品や電気電子製品等として実用化された製品の品目数	成果実績	個	-	1	4	-		
			目標値	個	-	2	4	8		
			達成度	％	-	50%	100%	-		
活動指標及び 活動実績 （アウトプット）	活動指標			単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込		
	循環型社会ビジネスモデル構築に向けた実証事業の件数	活動実績	事業件数	5	4	4	-			
		当初見込み	事業件数	3	3	3	5			
単位当たり コスト	算出根拠			単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込		
	本事業における総執行額／事業数			百万円	37.5	47.3	33.7	31.9		
				計算式	執行額 ÷ 事業数	187.6÷5	189.2÷4	134.9÷4	159.6÷5	
内訳 （単位：百万円）	費目		27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由					
	環境保全調査費		159.6	0						
	計		159.6	0						

事業所管部局による点検・改善						
項目		評価	評価に関する説明			
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	我が国の優れたインフラ関連産業の一つである循環産業のさらなる発展や地域活性化、国際展開の支援のためには、政府、自治体、事業者等が相互に連携することは不可欠である。また、国内外のリサイクルを推進するためには、リサイクル技術の高度化は必須の課題であり、それらに向けた国の支援には高い社会ニーズがある。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	多様な主体を繋ぐことや、地域での取組を海外へ展開すること、技術の検証・普及を行うには、自治体や民間では形成するモデルや検討内容に限界があり、国が行うべき事業である。		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	国が率先してモデルを形成し、また戦略検討を進めることにより、各地への早期の波及が実現することから、必要かつ適切な事業である。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	事業実施者（請負者）の選定にあたっては、総合評価落札方式により競争性を確保しており、なおかつモデル事業実施地域の選定も公募を行っている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	既存3R集積地域の持つ資産にモデル事業によりネットワーク等の付加価値を供するものであり、受益者との負担関係は妥当である。		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	事業内容により掛かるコストは変動するものの、競争性の確保を通じ、事業成果を得るために適正なコスト水準と認識している。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	地域の循環作業支援、リサイクル技術の高度化に資する費用等を計上しており、真に必要なものとなっている。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		○	総合評価に基づき入札していることから入札額により若干の不用額が生じることがある。		
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		○	モデル事業の実施にあたっては、環境省及び請負者により、公募事業実施先における人件費、雑役務費等の適正な執行やコスト削減が計れるようにチェックしている。		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	循環産業のビジネスモデル、リサイクル技術の高度化等に着実な効果を得ている。		
	事業実施にあたって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	国が率先してモデルを形成し、また戦略検討を進めることにより、各地への早期の波及が実現することから、総合的にコストの削減が図られている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	リサイクル原料の調達や相互融通、再生財の確保等のバリューチェーン化の促進、リサイクル技術の高度化等、活動実績の見込を踏まえた成果を得ている。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	全国エコタウン会議等を通じて、事業成果を周知するとともに、ウェブサイトによる周知を行い、地域循環圏形成に繋げている。		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載）		-	全国エコタウン会議は、環境省・経済産業省が交代で毎年度開催するものであり、平成26年度は左記事業において経済産業省が会議を開催した。		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
	経済産業省・産業技術環境局		地域循環圏形成・高度化等基礎調査事業			
点検・改善結果	点検結果	本事業を通じ、これまでのリサイクルの取組を越えた様々な品目・素材の循環資源について、リサイクル技術・システムの有効性、ビジネスとしての採算性、他の事業者等との連携可能性等が明らかになり、既存の枠組みにとらわれない新たな視点のリサイクル技術の実用化・リサイクルシステムの社会実装の展開が図られた。また、支出先の選定については総合評価方式による選定等、競争性も確保されており、業務の進捗状況についても事業者との間で電話や電子メール等で連絡するとともに定期的に当省担当者との打合せを行い、常に事業の進捗状況を確認している。				
	改善の方向性	本事業が、環境負荷の低減及び持続可能な資源活用並びに国内経済の活性化、ひいては「環境と経済が好循環する持続可能な循環型社会」の構築に向けて、より効果的に寄与していくよう、外部有識者からの意見を踏まえながら、本事業の対象とするリサイクル技術・システムの抽出や、これらの技術の実用化・システムの社会実装の可能性の検討等を行い、更なる事業の有効性の向上を図ってまいりたい。また、一者入札を改善するために、業務仕様書の内容をより分かりやすく平易に記載し、多様な入札予定者に対する的確な周知を図ることとする。				
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度		平成23年度	104、新24-011	平成24年度	104	
平成25年度	142	平成26年度	144			

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A.株式会社三菱総合研究所			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
		36.7			
	本業務は請負契約であり成果物の対価として支払いを行うものであるため、精算報告書等の提出を要さないが、国費の支出の透明性を図るため任意で提出依頼を行ったところ回答を得ることができなかった。				
計		36.7	計		0
B.三菱UFJリサーチ & コンサルティング(株)			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
		20			
	本業務は請負契約であり成果物の対価として支払いを行うものであるため、精算報告書等の提出を要さないが、国費の支出の透明性を図るため任意で提出依頼を行ったところ回答を得ることができなかった。				
計		20	計		0
C.			G. みずほ情報総研(株)		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
					56.2
計		0	計		56.2
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)三菱総合研究所	プラスチック製容器包装廃棄物リサイクルの品質高度化等に係る調査検討業務	36.7	1	87%

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)	容器包装における環境負荷低減効果等モデル等検討調査業務	20	1	87%

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)サンビジネス	廃ペットボトルの輸出等市区町村における独自処理に関する実態調査業務	0.9	6	19%

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ごみジャパン	環境イベント等におけるリデュース容器包装利用商品の製造等に係る積極的な情報発信に対する消費者意識調査業務	0.9	少額随契	-

E.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(一財)地球・人間環境フォーラム	リユース容器等に係る各主体の取組状況等詳細調査検討業務	0.7	少額随契	-

F.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(公財)廃棄物・3R研究財団	資源効率性向上に向けたリサイクル技術動向調査業務	1	少額随契	-

G.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	みずほ情報総研(株)	エコタウン検討調査業務	56.2	1	96%

H.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	みずほ情報総研(株)	エコタウン関連事業審査委員会及びワーキンググループ統括業務	1	少額随契	-

支出先上位10社リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載

チェック

I.(株)エヌ・シー・エス			M.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
借損料	反毛機リース料等	6			
人件費	古着の資源化検討業務	4			
物品購入費	難燃剤購入	4			
その他	反毛機修繕費	2			
計		16	計		0
J.			N.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
計		0	計		0
K.			O.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
計		0	計		0
L.			P.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

別紙3

I

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)エヌ・シー・エス	北部九州を中心とする「地域循環型古着リサイクル事業」	16	公募	-